

おすすめの本

中学生・高校生のみなさんへ



2014年10月発行

発行者：枚方市立図書館児童サービス委員会
枚方市立中央図書館 児童サービスグループ内
電話 050-7105-8121 FAX 072-851-0962

*このリストは2013年に新聞等で紹介された本のなかから20冊を選んだものです。



Because I am a Girl

わたしは女の子だから

ティム・ブッチャー他／著

角田光代／訳 英治出版 908-3

「女の子だから」という理由だけで学校にも行けず、売買されたり、暴力をふるわれたりと、途上国に住む「女の子」たちの身の上には厳しい現実が起きている。しかし、そんな過酷な環境の中でも彼女たちは決してあきらめることなく力強く生きていく。様々な状況下で生きる「女の子」たちを描いた短編集。国際NGOプランが推進するキャンペーンに賛同した作家たちがそれぞれの活動地を取材し、その体験を元に執筆した。

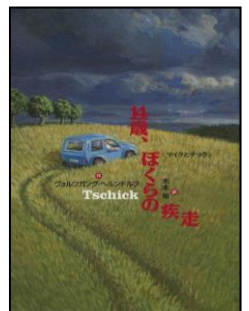


14歳、ぼくらの疾走

ヴォルフガング・ヘルンドルフ／作

木本栄／訳 小峰書店 Nへル

ベルリンの14歳の少年マイクは、プール付きの豪邸で暮らし、アルコール依存症の母と浮気者の父に悩まされている。学校でも浮いていて、夏休みに憧れのタチアナの誕生パーティに招待されなかったのはマイクと貧しい移民のチックだけだった。チックは車を盗んで無免許運転でマイクを連れだし、タチアナのパーティを冷やかしに行った。そしてそのまま二人はチックの祖父が住むルーマニアのワラキアをめざして東ドイツを縦横無尽に走る。2011年ドイツ児童文学賞。



かさねちゃんにきいてみな

有沢佳映／著 講談社 **Fアリ**

小学校6年生の女子、かさねちゃんは登校班の班長をつとめている。大人も頼るほどのしっかり者で、協調性にとぼしい7人を優しく、時には厳しくまとめている。5年生の男子、ユッキーはそんなかさねちゃんに頭があがらない。しかし、かさねちゃんは、祖母に引き取られた4年生のリウセイを訪ねるとき、なぜかユッキーに頼るのだった。

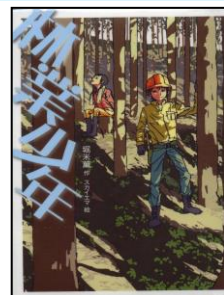


林業少年

Fホリ

堀米薫／作 スカイエマ／絵 新日本出版社

小学5年生の喜樹^{きじゆ}は、古くから林業を生業とする大沢家に生まれ、祖父から後継者として期待されることに重苦しさを感じていた。しかし、百年杉の相対^{あいたい}取引^{とりひき}（売買交渉）をする祖父に同席して次第に林業に興味を覚える。姉の楓^{かえで}も林業を志すのだが、林業は採算の取れない産業であるため、両親は猛反対する。



ふたり

福田隆浩／著 講談社 **Fフク**

6年生の村井准一^{じゅんいち}は転校生の小野佳純^{かすみ}がいじめにあっていないことを知り、何かと気を配っていた。そして二人とも「月森和^{つきもりかず}」というミステリー作家のファンであることがわかり、すっかり意気投合する。月森和には別の作家名があり、そのヒントが月森和の作品の中にあると知った二人はその謎を探ってゆく。



木曜日は曲がりくねった先にある

長江優子／著 講談社 **Fナカ**

国立中学の学力試験には受かったのに抽選で落ちた瑞紀^{みずき}は、3年間誰とも関わらずに過ごそうと決意する。ところが、誘われるがまま入部した理科部で、小学校時代に転校した奏斗^{かなと}と再会する。色に対して特別な感覚を持つ奏斗も他の人との違いに疎外感をもち、距離をおいていた。理科部の鉱物採集を通して二人は次第に心をひらいていく。



少年口伝隊 一九四五

井上ひさし／作 講談社 **Fイノ**

1945年8月6日、原爆投下により壊滅的な被害を受けたために新聞を発行できなくなった中国新聞社は、ニュースを口頭で伝えるために「口伝隊」を組織した。国民学校6年生の英彦、正夫、勝利の3人は「口伝隊」に入り、ニュースを伝えて歩く。「塩は海辺で自給自足しましょう」というと「海辺は死体でいっぱいじゃ」と罵声を浴びせられる。1か月後、山津波で勝利が死に、やがて正夫も英彦も原爆症のためこの世を去る。



ガール・イン・レッド

ロベルト・インノチェンティ／原案・絵

アーロン・フリッシュ／文

金原瑞人／訳 西村書店 **えほん**

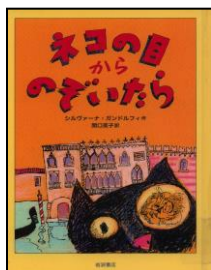
舞台を大都会に変えた現代版「赤ずきんちゃん」。主人公のソフィアは森の向こう側に住むおばあさんのところへ出かけていく。森の心臓部は毒々しい色と騒音にあふれ、ソフィアにとって誘惑に満ちた場所だった。迷子になったソフィアに狡猾なおオオカミやジャッカルが付きまとう。ソフィアの運命はどうなってしまうのだろうか。



ネコの目からのぞいたら

シルヴァーナ・ガンドルフィ／作
関口英子／訳 岩波書店 **Nカン**

識字障害のダンテは家庭教師のテレパシーの研究で子猫の見たものが頭に浮かぶようになる。その子猫が女の子に拾われるところが見え、その女の子が誘拐されるのが見えたのだ。当然のようにだれもダンテの話の信じてくれないので、ダンテは女の子を助けようとひとりで奮闘する。



テラプト先生がいるから

ロブ・ブイエー／作
西田佳子／訳 静山社 **Nファイ**

スノウヒル小学校5年生の担任になったテラプト先生は、新米教師とは思えない手腕で着々とクラス全体をまとめてゆく。しかし、アレクシアはなかなかイジメをやめず、テラプト先生はアレクシアを厳しく叱る。そんなある日、生徒の悪ふざけのためテラプト先生は頭に大ケガを負う。



母さんがこわれた夏

マリャレーナ・レムケ／作
松永美穂／訳 徳間書店 **Nレム**

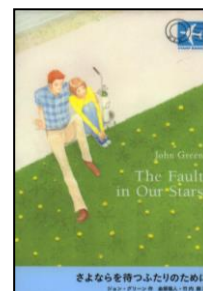
しっかり者のゾフィーは四つ子の一人。空想好きな父はタクシーの運転手。優しい母は家で英語を教える日々。10歳の夏にフィンランドへ家族旅行に行き、美しい森や湖、おいしい料理を子どもたちは楽しんでいましたが、母は次第に元気がなくなっていた。子どもたちは母の具合が悪くなったのは自分たちのせいかと思い悩む。



さよならを待つふたりのために

ジョン・グリーン／作
金原瑞人／訳 岩波書店 **Nクリ**

16歳の少女ヘイゼルは肺腫瘍のため余命いくばくもない。いやいや入った「癌患者サポートセンター」で、骨肉腫のため片足を失った17歳の少年オーガスタスと恋におちる。自分が死んだあとも誰かが覚えてくれているだろうか？ 癌で亡くなる少女を描いた小説「至高の痛み」の作者に会うために二人はオランダへ旅立つ。



スターリンの鼻が落っこちた

ユージン・イェルチン／作・絵
若林千鶴／訳 岩波書店 **Nイエ**

サーシャの父は国家の英雄で、サーシャも「ピオネール団」に入りたいと願っている。ところが父が隣人の告発により秘密警察に逮捕された。その上サーシャは入団式の練習をしているときにスターリン像の鼻を落としてしまう。いつばれるかとびくびくしていると、なんと級友の告発により、嫌われ者の教師がスターリン像破壊の犯人として逮捕される。



語りつぐ者

パトリシア・ライリー・ギフ／作
もりうちすみこ／訳 さ・え・ら書房 **Nキフ**

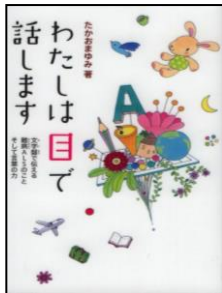
アメリカの少女エリザベスは彫刻家の父の海外出張のため、亡き母の妹である叔母の家に預けられた。なじみのない叔母の家でエリザベスは自分とそっくりの女性の肖像画を見つける。それは彼女の祖先にあたる少女、ズイーの姿であった。エリザベスは200年前の独立戦争という動乱の時代を生きたズイーの足跡をたどり始める。



わたしは目で話します

たかおまゆみ／著 偕成社 916

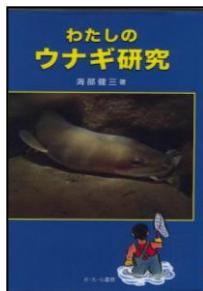
49歳のとき難病ALS（筋萎縮性側索硬化症）を発症した著者が文字盤を使って言葉を紡いだ本。翻訳家として充実した日々を送っていた著者の日常生活は、突然の病気によって激変する。体が不自由になり音声言語を失い、コミュニケーションの手段がなくなったために一時は生きることに絶望する作者だが、文字盤によって再び言葉をとり戻す。



わたしのウナギ研究

海部健三／著 さ・え・ら書房 487

2013年に絶滅危惧種に指定されたニホンウナギは、わたしたちにとって身近な存在でありながら、まだまだ謎の多い生き物である。天然ウナギの卵を探す調査は1965年から始められ、2009年によく発見された。著者は岡山県の旭川と児島湾で暮らしながら、ウナギ漁を漁師から教わることから始め、その生態を解き明かしていく。



平和を考える戦争遺物 ①②

岩脇彰・東海林次男／編 汐文社 210

明治初期から太平洋戦争までに実際に使われていた様々な日用品等を紹介しながら、戦争がどのように日常生活に影響を与えていったかを知ることができる。

第1巻では、子どもたちの生活や学校教育に関係するものを、第2巻では、徴兵検査を受けて兵士となったある人物の歩みを、それに関わる遺物とともにたどっていく。



古代イラク

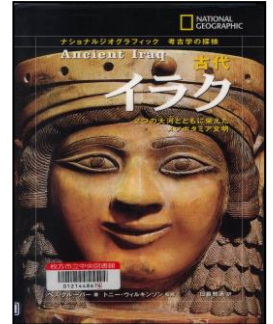
ナショナルジオグラフィック 考古学の探検

バス・グルーバー／著 日暮雅通／訳

BL出版 209

二つの大河とともに栄えたメソポタミア文明を美しい写真を添えて解説している。バスの車輪も象形文字も時間を60進法で表す方式も古代イラクで発明された。

しかし今も続く戦争の影響で遺跡は破壊され、貴重な遺物も略奪され、考古学者たちには文化財の保護という新たな役割が生じた。



戦争がなかったら

高橋邦典／著 ポプラ社 367

2003年、リベリア共和国で内戦がピークに達したころ、報道カメラマンの著者は現地で、砲弾で右手を失った6歳の少女ムス、少年兵にされた13歳のモモと14歳のファヤに出会った。2003年8月に内戦は終結し、著者はその後の10年間を追った。戦争は彼らの心に深い爪痕を残したままだ。



領土を考える ①②

塚本孝／監修 かがわ出版 329

領土(領海)をめぐる、日本は周りの国々との間に問題を抱えている。平和的な解決策を探るために領土について考えるシリーズ。第1巻では領土とはなにか、国境とはなにかについて解説している。第2巻では、現在日本で起きている領土問題について、明治時代以降からの歴史的な経緯や他国の主張も紹介しながら解説している。

